

海老名市立有馬小学校 学校運営協議会 議事録
(令和7年度 第2回)

- 1 日時 令和7年11月25日(火) 9:45～12:00
- 2 場所 海老名市立有馬小学校 校長室
- 3 出席委員 小松 明 委員長、山口 慎二 副委員長、二見 隆江 委員
村山 紀行 委員、北村 真理 委員
住田 晶子 校長、内山 大輔 教頭、片岡 香子 総括教諭
(欠席：奥谷 婦貴子 委員、小林 里実 委員)

4 会議の内容

(1) 学校長挨拶

住田校長：本日はお集まりいただき、ありがとうございます。

インフルエンザが増え、先週は3クラスが学級閉鎖となった。6年生も1クラスが学級閉鎖となっていたが、修学旅行は実施することができた。今週の土曜日には、はるにれフェスタを予定している。子どもたちの体調に留意しながら、準備を進めていきたい。

本日は、授業を参観いただいた後、運動会やはるにれフェスタ、全国・学力学習状況調査の結果などについてご報告をさせていただきたい。ご協力をお願いいたします。

(2) 授業参観

(3) 協議

① 地域との連携について

住田校長：まずは、運動会について報告する。

～写真を映しながら、住田校長より運動会についての報告～

内山教頭：運動会当日のシート敷きについて、例年と変更した点があるため報告する。当初は昨年度同様、昼食時のみ保護者はレジャーシートを敷いてよいことにしていたが、小さいお子さんをお連れの方やお年寄りのためには、朝からレジャーシートを敷けたほうがよいのではないかという意見もあり、急遽、当日の朝8時10分から敷けるように変更した。

運動会の昼食については、「地域の方と交流ができてよい機会になった。」

「みんなで昼食を食べる機会を大切にしたい。」など、地域や保護者

の方からの意見がある一方、「昼食を見直してほしい。」という意見もあった。

片岡総括教諭：P T Aは、今年度からボランティア制を取り入れ、ボランティアに協力した方が優先席に座れるようにした。敬老席と勘違いをされた方などもいたが、ボランティアに携わってくださった方たちからは、ゆったり座れてよかったと好評だった。

P T Aの方には当日も、駐輪場の整理や片付けなど、様々な面で協力していただいた。

住田校長：次に、11月29日（土）に予定している、はるにれフェスタについて教務担当よりお伝えする。

片岡総括教諭：地域の方には、今年も野菜を提供いただき、学校応援団に販売いただくことになっている。学校応援団には、お茶をたてるコーナーも野菜販売と併せて設けていただいている。

ほかにも、動物とのふれあいコーナーや消防団、野球チーム、P T Aによるブースもあり、子どもたちが楽しめるように多くの方が協力してくださっている。

学校では、4年生がニュースポーツ体験、5年生がお米を活用したゲーム、6年生はインクルーシブ教育についてのブースを、職員もサツマイモのつるを活用したリースづくりのブースを出すことにしている。

住田校長：続けて、グリーンプロジェクトについて。

学校に緑を増やそうと、保健室前の一部芝生化やぷちいちごというボランティアに依頼して、花の苗植え等を行ってきた。

これに加えて、学校環境緑化事業にも取り組んでいる。

内山教頭：昨年度に学校緑化事業に応募し、今年度植樹が行えるように計画を進めている。具体的には、ハナモモやサクラ、モミジなどの木を植えたり、遊歩道を整備したりしたいと考えている。ローソンの募金によって植樹した旨を記した看板設置が必須なので、そのことについては、村山委員にもご協力いただいて準備を進めている。

二見委員：ハナモモの苗は、校庭のベンチ横に設置する計画か。

内山教頭：そのように考えている。東側には、園芸委員会の児童から希望があったサクラやモミジを植えたい。

二見委員：景観を大事に植樹していただけるとうれしい。また、昨年度6年生が作ったベンチも補修して事故や怪我のないようにしていただきたい。校庭の西側のラインが活用できたらと思っている。

② 全国学力・学習状況調査及び学びづくり部の取組について

住田校長：次に、全国学力・学習状況調査について。今年度は、6年生35名が実施。理科の調査もあった。

～資料をもとに、住田校長より全国学力・学習状況調査結果の報告～

山口委員：「新聞を読んでいますか」という項目は、家庭で新聞を取っていない児童も含まれているのか。

住田校長：設問どおりなので、実際に家庭で新聞を取っていない児童も回答していると思う。

片岡総括教諭：図書室には、毎日新聞を配架している。

住田校長：「読書は好きですか」という項目も全国と比べて肯定的な回答が少なかったため、昇降口に本のコーナーを新たに設置して、本に興味を持ってもらえるようにしている。本のコーナーは、図書委員会の児童が考案した『ありまん堂』という名前に決定した。これまで、運動会特集、4年生が国語の学習で作ったポップの特集、いまは1年生のいちおしの本を展示している。少しでも楽しい本があることを知ってもらいたいと思っている。また、図書委員会の児童や教師のおすすめの本を給食時に放送で紹介するなどの取組も2学期から始めている。

また、学習面では、算数に課題が見られたことから、あり算タイムと称して、全学年で算数プリントに取り組んでいる。1～3年生は先生が用意した3、4種類のプリントの中から、4～6年生は職員室前の棚から自分の力に応じたプリントを選ぶかたちを取っている。プリントの半分以上の問題に取り組むと専用の台紙にシールを貼れるようにすることで、少しでも意欲的に取り組めるよう工夫している。

二見委員：どの時間で取り組んでいるのか。

片岡総括教諭：1時間目の前の朝学習の時間に取り組んでいる。

小松委員長：あり算タイムのシールは、一人一人に対して、すべて台紙に全部埋めましようという形を取っているのか、それとも本人任せにしているのか。

片岡総括教諭：本人に任せている。時間内に1枚の半分くらいしかできない児童もいれば、3枚くらいできる児童もいるので、台紙を全部埋めることは求めているが、どの児童も1枚はシールがもらえるようにしている。

小松委員長：シールの台紙については、ゴールが見える化して、ここまで頑張ろうと意欲をかき立てられるような形になるとよいと思う。児童の習熟度に応じたプリントができる取組は、とてもよいと思っている。算数が苦手な児童もシールが増えることで、できたことが見える化できるのではないかな。

二見委員：継続性のある取組にしていきたい。

住田校長：児童が自己調整しながら、継続的に取り組めるようにしていきたい。

二見委員：あり算タイムやありまん堂などの環境づくりは、児童のなかで生きていくと思っている。

③ ひまわりタイム・交換授業について

～アンケート結果をもとに住田校長が説明～

住田校長：ひまわりタイムは、ひまわり級以外の教員が、週に1コマ、ひまわり級の支援に入る取組で、交換授業は教科担当を学年または学年団の中で交換する取組。ひまわりタイムについては、インクルーシブ教育の効果や教員自身の学びにつながっていると回答している教員がほとんど。どちらの取組にも改善点があがっているので、できるところから手をつけていきたい。

また、チーム担任制についてもアンケートを取ったが、こちらには様々な意見があった。

二見委員：どのようにすれば先生方の負担軽減につながるのか、児童のためになるのかを検討していただきたい。

有馬小の先生方は、全員の担任という意識が高いと思っている。

山口委員：これは、全国的な取組なのか。

住田校長：全国的に増えてきている。

山口委員：海老名市ではどうか。

住田校長：取り組んでいる学校があるかは、確認できていない。

小松委員長：児童にとってはどうか、先生方にとってはどうかという両面から見ていく必要がある。医学の面でも、チーム医療に取り組んでいるところもあるが、担当医が責任をもって治療にあたることを大切にしているところもある。

有馬小は人数も少なく、動きやすい学校だから、その利点が生かせるとよい。よりよい方策を研究してもらいたい。

(4) その他

次回の、学校運営協議会は、令和8年2月5日（木）9:45から開催予定。